

パリでの取材も大詰めを迎えた昨年暮れ、
テールブル・セツティングでは独自の演出
で知られるベネロップ展があることを知
り、駆けつけた。展示会場では、私が美術
館のガラスケース越しに見てきたセーヴ
ル磁器が、フランスの現代空間デザイン
ーによって生き生きとコーディネートさ
れ、砂漠の旅の食卓など、映画のワンシ
ーンのように楽しい世界に魅了された。

時代の推移の中でセーヴル窯は変容を
繰り返してきた。一九世紀のパリ万博で
は新しい芸術運動に刺激を受けて、イン
テリア装飾品も作るようになった。アー



上／1965年以来、各界のアーティストとの
コラボレーションで新しい創作に挑む
セーヴル窯。作品の原画をステンシル版画
にした美術書も限定発行されている。
Bernard Chauveau éditeur／CELF

ル・ヌーヴォー時代にはミュシャの絵か
ら抜け出たような女性像を白地のビスキ
ユイで焼いた作品も出現。さらにこの時
代には浮世絵に代表される日本趣味ジャポネズリに影
響を受けて、織部や備前など日本の焼物
を模した作風に挑戦した。次いでアー
ル・デコ時代にはガラス工芸家のラリッ
ク風やティファニーのステンドグラス風
のランプシェード、花瓶が登場する。そ
して現代、セーヴル窯は画家や建築家な
どアーティストとのコラボレーションに
積極的で、大統領官邸・エリゼ宮に納める
器はアブストラクトな作品が好まれてい
る。伝統と革新の共存。これこそ、セー
ヴルが常に輝くパワーにほかならない。